

企画名 「高校生がケアするまちづくり」プロジェクト
～基礎力を強化し個に応じた実践力を身につける取り組み～

【目標】

- ①地域包括ケアに参画し、「高校生がケアするまちづくり」を実現する。
- ②企業・大学と連携し、共同研究を通して認知症予防ゲームの商品開発を目指す。
- ③効果を検証するとともに多様な医療ニーズに柔軟に対応できる実践力を備えた看護の人材育成を目指す。

【取組内容】 看護系大学・地域医療専門職との多職種連携による実践型学習

1 「地域いきいき」の実現に向けた取り組み(高校1年～3年生)

- ①高校3年生が中心の縦割り班学習活動で認知症予防ゲームの企画・開発(案)づくり
 - ・認知症についての学習後、16G 編成し、各 G 認知症予防に効果のあるゲームを企画
- ②学内プレ実践発表会による認知症予防ゲーム企画(案)の評価・検討・修正
 - ・県立看護大学 教授とのセッション
- ③企業・大学の助言を受け、認知症予防ゲームの実践・評価・修正及び認知症予防ゲームの商品開発
 - ・印刷業者と商品について検討
 - ・力(ちから)すごろくの商品開発
- ④商品開発した認知症予防ゲームを用いて、地域実践(ボランティア活動)
 - ・実践の効果をアンケートやテストにより評価

2 「地域あんしん」の実現に向けた取り組み(専攻科1年～2年生)

- ①企業との連携による小児～高齢者への在宅ボランティアによる看護実践体験
- ②企業・大学と連携した地域医療・在宅看護の体験学習の実践
- ③企業・大学生と協働による小児～高齢者への在宅ボランティア(スキルアップ)

【成果】

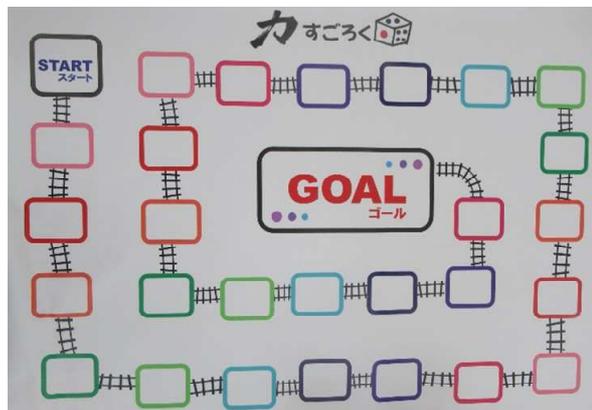
- ・地域医療を担う有為な人材となる意識が非常に高まった。
- ・地域包括ケアについて主体的に学び、課題解決のために努力し続ける姿勢が身についた。
- ・大学や企業との連携により看護の専門的視点をより深く学び、看護職としての自覚が高まり、看護実践力向上につながった。
- ・相手の立場に身を置き換えて考える姿勢やコミュニケーション力・チームワーク力などの看護の心や態度が身についた。

【課題】

- ・高校生がケアするまちづくりに向け、対象者の幅を広げ、若年者への認知症予防の理解・普及・推進活動が課題である。



「看護大学教授とのセッション」



「開発した『力(ちから)すごろく』」